

｜ 石井式漢字教育の現場 ｜

さて、これまで言葉・文字・教育について、私の実体験を通して得たさまざまな理論を述べました。しかし、どんな理論も、理論である内は画に描いた餅だとよく言われますから、それを実際の現場で実践してみ、その結果を観察してみることが一番大切なことではないかと思ひます。

そこで、石井式漢字教育の実践報告の実例をここに紹介したいと思ひます。昭和60年10月17日、東京の十文字高等学校で聞かれた第22回全国漢字漢文教育研究総会の第3分科会発表者として、島根県太田市の市立大屋小学校校長・江角龍夫先生が「小学校における石井式漢字指導の実践」と題して発表されたお話を、ここに再現して載せることにしますので、参考にして頂きたいと思ひます。

[小学校における石井式漢字指導の実践]

島根県太田市立大屋小学校校長・江角龍夫

【はじめに】

昭和51年度に出東小学校においてスタートした石井方式漢字指導の研究は、実践8年を経て「石井勲先生を囲む会」に発展し、この夏の研究会には小学校・中学校・養護学校をはじめ教育センター、県立中央病院の先生まで延べ200名の参加者があり、その地域は県下5市7郡に広がった。研究の第1年次より参画した者の一人として、以下石井方式漢字指導の実践について述べてみたい。